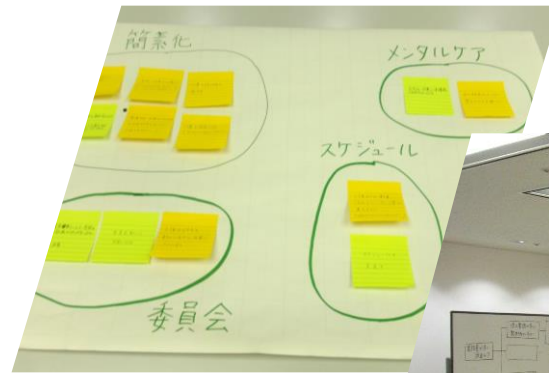


3. 休憩の質の向上、 ノンコンタクトタイムの導入編



休憩とは？～休憩を取りやすくするために～

①課題

- 休憩がもっととれるのではないかな？
- 休憩の質が向上するのではないかな？

- 保育園名 中比恵ソレイユ
ガーデン保育園
- 所在地 福岡市博多区
博多駅東
2-12-34
- 定員 90名
- 職員数 29名



②原因

- 休憩に対して様々な意見がある。
- 更衣室に人が集まりすぎる。
- 業務量が多い時期もある。

③打ち手

- 休憩中に何をしてもよい。
- 職員同士連携すること。
→休憩時間をずらすなど
- フリーノートの活用、業務作業できるときに業務内で協力する。

④取り組みの成果/感想

休憩の取り方や時間など園全体で意見を出し合うため、アンケートを実施した。すると、今までは気付かなかった事もわかり、どうすれば取りやすい休憩のかたちになるか職員で考えることができた。今回の研修で、まずは課題を見つけポイントを絞ることで様々な原因、それに対する打ち手を見いだすことができたと思う。今後も職員同士の連携を大切に、よりよい職場づくりをしていきたい。

ノンコンタクトタイムを有効活用！

①課題

○ノンコンタクトタイムの確保

②原因

- ①各クラスの事務及び業務内容が明確化されていない
- ②保育士の配置や時間の確保

■保育園名 ブライト保育園福岡東比恵

■所在地 博多区東比恵2-12-39

■定員 60名

■職員数 18名



③打ち手

- 各クラスの事務、作業内容を整理及びリスト化（作業表やフリーノートを作成、活用する）
- 人員配置の調整
- ICTの活用（連絡帳、欠席連絡をアプリ内で行う）
- 各種会議の設定の見直し及び工夫

④取り組みの成果/感想

この研修に参加するようになり、少しずつ出来るところからノンコンタクトタイムを取り入れようと土曜日に一人担任のクラスが主に作業時間を設けたり、職員数にゆとりがある日に必要なクラスが順番でノンコンタクトタイムを確保したり、他職員に依頼出来るところはお願いするという形が少しずつ定着してきた。また連絡帳や欠席連絡もアプリでの連絡を取り入れたことで午睡の時間を有意義に使えるようになってきたと感じる。今後も、より“業務の見える化”を目指しながら先生たちが気持ちにゆとりを持ち、楽しんで保育が出来るよう、今回の研修を通して学んだ課題への考え方や手順など園内研修でも取り入れていきながら職員への周知も行いたいと考えている。

休憩・ノンコンタクトタイム！

①課題

休憩・ノンコンタクトタイムを
取れるようにしたい

■保育園名 認定こども園成徳保育園

成徳保育園ココテラス

■所在地 西区大町団地1135-6

■定員 270名(+1号15名) 18名

■職員数 60名(2施設合計)



②原因

- ・しなければならぬことが多い
(カリキュラムや行事等)
- ・今の活動内容のままだと以上児の
担任の代わりは、限られた職員しか
入れない

③打ち手

- ・保育内容・行事内容・業務内容
の見直し
(減らす・形を変える・まとめる)

④取り組みの成果/感想

- ・業務改善についてじっくり考える良い機会となりました
<これからしていくこと>
- ・以上児の担任が休憩するため、代わりにクラスに入る為の当番の仕組み作り（職員への聞き取りしながら決めていく）
- ・カリキュラムや行事を時代の流れもキャッチしながら見直す

業務の効率化で保育の質の向上を図る

①課題

- ・ノンコンタクトタイムがなかなかとれない。
- ・クラスによりノンコンタクトタイムが取りやすい、取りにくいがある。
- ・ノンコンタクトタイムの質を上げたい。

■保育園名 社会福祉法人 親和会
西都保育園

■所在地 福岡市西区大字女原414-1

■定員 90名

■職員数 25名



②原因

- ・ノンコンタクトタイムに使用する部屋がない。
- ・日によって、子どもの出欠や体調が違う。
- ・気になる子供が増え、未満児でも午睡をしない子どもが増加している。
- ・事務室で業務作業をしても、電話や来客があり、集中して取り組めない。

③打ち手

- ・使用するブースの設置。
- ・職員配置の工夫。
- ・交代で取れるよう、シフト表を作る。
- ・ノンコンタクトタイムで行う業務内容を決めておく(各クラス園全体で取り組みたい事を優先)
- ・グループラインを使用し情報を一括で共有する。

④取り組みの成果/感想

- ・子どもの出欠に合わせて、保育士の人数を調整することで時間を生み出すことができた。
- ・ノンコンタクトタイムで行う業務を事前に計画しておくことで、効率良く業務を行えた。
- ・職員同士での連携がスムーズにとれるようになり目的意識をもって保育ができるようになった。
- ・ノンコンタクトタイムを取る事で、結果的に保育の質を向上させることにつながると感じた。

R6 12月下旬 ノンコンタクトルームを設置



子どもたちにもわかりやすいよう表示する

今後の課題としては、働き方(正規職員、非正規職員等)によってノンコンタクトタイムの業務が違うので、多少時間に差はある。優先事項を重視するあまり、ノンコンタクトタイムを取る職員に偏りが出て来る事も考えられるので工夫が必要だが、保育環境の改善に繋がったのではないかと思います。



『1人で作業することでかなり集中できるようになり
効率よく書類作成が出来るようになった』

『子どもの声が聞こえても保育室の先生に任せ
割り切って仕事をする事が出来るようになった』
との意見が多く聞かれている

